

えひめけんしゅわげんご ふきゅうおよ しょう とくせい おう いしそつう
愛媛県手話言語の普及及び障がいの特性に応じた意思疎通
しゅだん りょう そくしん かん じょうれい
手段の利用の促進に関する条例

けんみんひとりひとり しょう う む ねんれいとう
県民一人一人が、障がいの有無、年齢等にかかわらず、そ
いし そうご つた うえ りかい じんかく こせい そんちょう あ
の意思を相互に伝えた上で、理解し、人格と個性を尊重し合
いながら共生する地域社会を実現することは、私たち愛媛
けんみんすべ ねが
県民全ての願いである。

しゅわ おんせいげんご こと ごいおよ ぶんぼう たいけい ゆう
手話は、音声言語とは異なる語彙及び文法の体系を有し、
て ゆびおよ からだ うご ひょうじょう しかくてき ひょうげん
手、指及び体の動きや表情などによって視覚的に表現さ
れる独自の言語であり、しょうがいしゃきほんほう げんご
独自の言語であり、障害者基本法においても、言語に
しゅわ ふく めいき いっぽう かこ
手話が含まれることが明記されている。一方で、過去には、
ながねん しゅわ げんご みと げんご
長年にわたり手話が言語として認められず、言語としての
しゅわ まな およ しょう かんきょう じゅうぶん ととの
手話を学び、及び使用する環境が十分に整えられてこな
れきし しゅわ げんご けんみん
かった歴史があり、手話が言語であることについての県民の
りかい かなら じゅうぶん
理解が必ずしも十分であるとはいえない。

しゅわ いしそつうしゅだん えんかつ りょう
また、手話をはじめとする意思疎通手段の円滑な利用の
かくほ しょう しゃ ちいきしゃかい かつどう さんか
確保は、障がい者が地域社会における活動に参加するため
か しょう しゃ にちじょうせいかつまた
に欠くことができないものであり、障がい者が日常生活又
しゃかいせいかつ いとな およ さいがい たひじょう じたい
は社会生活を営み、及び災害その他非常の事態において
てきせつ こうどう
適切に行動することができるようにするために、それぞれの

しょう とくせい おう い し そつうしゅだん かくほ きっきん
障がいの特性に応じた意思疎通手段を確保することが喫緊
かだい
の課題となっている。

じょうきょう なか けんみん そうご じんかく こせい そんちょう
このような状況の中、県民が相互に人格と個性を尊重
あ きょうせい ちいきしゃかい じつげん
し合いながら共生する地域社会を実現するためには、これ
ほんけん と く しょう しゃとう えんかつ りょう
まで本県で取り組まれてきた、障がい者等が円滑に利用で
しせつ せいび そくしん しょう りゅう さべつ かいしょう
きる施設の整備の促進、障がいを理由とする差別の解消の
すいしんおよ しょう しゃ たい ひつよう ごうりてき はいりよ そくしん
推進及び障がい者に対する必要かつ合理的な配慮の促進に
くわ しゅわ どくじ ご い およ ぶんぼう たいけい ゆう げんご
加えて、手話が独自の語彙及び文法の体系を有する言語で
ふきゅう しょう しゃ ひつよう
あることを普及するとともに、障がい者が、その必要とする
じょうほう しゅしゃせんたく しょう とくせい おう
情報を取捨選択し、かつ、それぞれの障がいの特性に応じ
い し そつうしゅだん もち えんかつ い し そつう おこな
た意思疎通手段を用いて円滑な意思疎通を行うことができ
かんきょうとう せいび ふかけつ
る環境等を整備することが不可欠である。

しゅわ げんご ふきゅう
ここに、手話が言語であることを普及するとともに、それ
しょう とくせい おう い し そつうしゅだん りょう そくしん
ぞれの障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用の促進を
はか しょう しゃ いよく のうりよく おう かつやく
図ることで、障がい者がその意欲と能力に応じて活躍し、
すべ けんみん しょう うむ ねんれいとう そうご
全ての県民が障がいの有無、年齢等にかかわらず相互に
じんかく こせい そんちょう あ きょうせい ちいきしゃかい じつげん
人格と個性を尊重し合いながら共生する地域社会を実現
じょうれい せいいてい
するため、この条例を制定する。

もくてき
(目的)

だい じょう じょうれい しゅわげんご ふきゅうおよ しょう とくせい
第1条 この条例は、手話言語の普及及び障がいの特性に

おう い し そつうしゅだん りょう そくしん かん きほんりねん さだ
応じた意思疎通手段の利用の促進に関し、基本理念を定
め、県の責務並びに県民及び事業者の役割について明ら
かにするとともに、手話言語の普及及び障がいの特性に
おう い し そつうしゅだん りょう そくしん かん しさく きほん
応じた意思疎通手段の利用の促進に関する施策の基本と
なる事項を定めることにより、当該施策を総合的かつ
けいかくてき すいしん しょう しゃ いよく のうりよく おう
計画的に推進し、もって障がい者がその意欲と能力に応
じて活躍し、全ての県民が障がいの有無、年齢等にかか
わらず相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する
ちいきしゃかい じつげん きよ もくてき
地域社会の実現に寄与することを目的とする。

ていぎ (定義)

だい じょう じょうれい つぎ かくごう かか ようご いぎ
第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義

とうがいかくごう さだ
は、当該各号に定めるところによる。

- (1) しゅわげんご ふきゅう しゅわ げんご ひと ふ
手話言語の普及 手話が言語の一つであることを普
きゅう
及することをいう。
- (2) しょう しんたいしょうがい ちてきしょうがい せいしんしょうがい はったつしょうがい
障がい 身体障害、知的障害、精神障害(発達障害
ふく なんびょう げんいん しょうがい た しんしん きのう
を含む。)、難病を原因とする障害その他の心身の機能
しょうがい
の障害をいう。
- (3) しょう しゃ しょう もの しょう およ
障がい者 障がいがある者であって、障がい及び
しゃかいてきしょうへき しょう もの にちじょうせいかつまた
社会的障壁(障がいがある者にとって日常生活又は
しゃかいせいかつ いとな うえ しょうへき しゃかい
社会生活を営む上で障壁となるような社会における

じぶつ せいど かんこう かんねん た いっさい
事物、制度、慣行、観念その他一切のものをいう。)により
けいぞくてき にちじょうせいかつまた しゃかいせいかつ そうとう せいげん う
継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける
じょうたい
状態にあるものをいう。

(4) 意思疎通手段 手話、要約筆記、点字、点訳、拡大

も じ おんやく ゆびてんじ しょくしゅわ じんこうこうとうはっせい ひつだん だいひつ
文字、音訳、指點字、觸手話、人工喉頭発声、筆談、代筆、
だいどく へいひ ひょうげん じつぶつまた え ず ていじ じまく じゅうど
代読、平易な表現、実物又は絵図の提示、字幕、重度
しょうがいしゃよう い し でんたつそうち たしょう しゃ た もの
障害者用意思伝達装置その他障がい者とその他の者の
い し そつう しゅだん
意思疎通の手段をいう。

(5) 意思疎通支援者 手話通訳、要約筆記、盲ろう者向け

つうやくおよ かいじょ しつごしょうしゃむ い し そつう しえん てんやく
の通訳及び介助、失語症者向けの意思疎通の支援、点訳、
おんやく だいひつまた だいどく おこな もの た しょう しゃ
音訳、代筆又は代読を行う者その他の障がい者とその
た もの い し そつう しえん おこな もの
他の者の意思疎通の支援を行う者をいう。

きほんりねん
(基本理念)

だい じょう しゅわげんご ふきゅうおよ しょう とくせい おう い し
第3条 手話言語の普及及び障がいの特性に応じた意思

そつうしゅだん りょう そくしん すべ けんみん しょう う む
疎通手段の利用の促進は、全ての県民が障がいの有無、
ねんれいとう そうご じんかく こせい そんちょう あ
年齢等にかかわらず相互に人格と個性を尊重し合うこと
じゅうよう にんしき もと おこな
が重要であるという認識の下に行われなければならない
い。

2 手話言語の普及は、手話が独自の語彙及び文法の体系を

ゆう げんご しょう にちじょうせいかつまた しゃかい
有する言語であり、これを使用して日常生活又は社会

せいかつ いとな もの ながねん う つ
生活を営む者によって長年にわたり受け継がれてきたも
のであるという認識の下に行われなければならない。

3 しょう とくせい おう い し そつうしゅだん りよう そくしん つぎ
障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用の促進は、次
にかか じこう むね おこな
に掲げる事項を旨として行われなければならない。

(1) しょう しゃ かのう かぎ しょう とくせい おう
障がい者が、可能な限り、その障がいの特性に応じ
ひつよう ゆうこう い し そつうしゅだん せんたく きかい かくほ
必要かつ有効な意思疎通手段を選択する機会が確保さ
れるようにすること。

(2) すべ しょう しゃ にちじょうせいかつまた しゃかいせいかつ
全ての障がい者が、その日常生活又は社会生活を
いとな ちいき しょう
営んでいる地域にかかわらず、それぞれの障がいの
とくせい おう い し そつうしゅだん りよう ひと
特性に応じた意思疎通手段を利用することにより等しく
ひつよう じょうほう しゅとく およ りよう なら
それぞれの必要とする情報を取得し、及び利用し、並び
えんかつ い し そつう はか
に円滑な意思疎通を図ることができるようにすること。

(3) しょう しゃ しゅとく じょうほう かのう かぎ しょう
障がい者が取得する情報について、可能な限り、障
しゃ もの しゅとく じょうほう どういつ
がい者でない者が取得することができる情報と同一の
ないよう じょうほう しょう しゃ もの どういつ じてん
内容の情報を障がい者でない者と同一の時点におい
しゅとく
て取得することができるようにすること。

(4) じょうほうつうしんぎじゅつ せんたんてき ぎじゅつ かつよう
情報通信技術をはじめとする先端的な技術の活用を
そくしん しょう しゃ かのう かぎ しょう とくせい
促進し、障がい者が、可能な限り、その障がいの特性に
おう い し そつうしゅだん りよう ひと
応じた意思疎通手段を利用することによりその必要とす
じょうほう しゅとく およ りよう なら えんかつ い し そつう
る情報を取得し、及び利用し、並びに円滑な意思疎通を

はか
図ることができるようにすること。

けん せきむ
(県の責務)

だい じょう けん ぜんじょう さだ きほんりねん い か きほんりねん
第4条 県は、前条に定める基本理念(以下「基本理念」とい
う。)にのっとり、しゅわげんご ふきゅうおよ しょう とくせい おう
じた意思疎通手段の利用の促進に関する施策を総合的に
さいてい およ じっし せきむ ゆう
策定し、及び実施する責務を有する。

けん ぜんこう しさく さくてい およ じっし あ
2 県は、前項の施策を策定し、及び実施するに当たっては、
しちょう じぎょうしゃ た かんけいきかん れんけい つと
市町、事業者その他の関係機関との連携に努めるものと
する。

けん だい こう しさく じっし あ しょう しゃ
3 県は、第1項の施策を実施するに当たっては、障がい者、
ほごしゃ た かんけいしゃ いけん き いけん
その保護者その他の関係者の意見を聴き、その意見を
そんちょう つと
尊重するよう努めなければならない。

けんみん やくわり
(県民の役割)

だい じょう けんみん きほんりねん しゅわ どくじ ごいおよ
第5条 県民は、基本理念にのっとり、手話が独自の語彙及
ぶんぽう たいけい ゆう げんご なら いしそつう
び文法の体系を有する言語であること並びに意思疎通
しゅだん りかい ふか けん おこな しゅわ
手段についての理解を深めるとともに、県が行う手話
げんご ふきゅうおよ しょう とくせい おう いしそつうしゅだん
言語の普及及び障がいの特性に応じた意思疎通手段の
りょう そくしん かん しさく きょうりよく つと
利用の促進に関する施策に協力するよう努めるものと
する。

じぎょうしゃ やくわり
(事業者の役割)

だい じょう じぎょうしゃ きほんりねん じぎょうかつどう
第6条 事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動を

おこな あ しょう しゃ しょう とくせい おう
行うに当たり、障がい者がその障がいの特性に応じた
い し そつうしゅだん りょう ひつよう じょうほう
意思疎通手段を利用することによりその必要とする情報
しゅとく およ りょう なら えんかつ い し そつう はか
を取得し、及び利用し、並びに円滑な意思疎通を図ること
ができるようにするよう努めるとともに、県が 行う手話
げんご ふきゅうおよ しょう とくせい おう い し そつうしゅだん
言語の普及及び障がいの特性に応じた意思疎通手段の
りょう そくしん かん しさく きょうりよく つと
利用の促進に関する施策に協力するよう努めるものと
する。

とどう ふけんしょうがいしゃけいかく かんけい
(都道府県障害者計画との関係)

だい じょう けん しょうがいしゃきほんほう しょうわ ねんほうりつだい ごう だい
第7条 県は、障害者基本法(昭和45年法律第84号)第11

じょうだい こう きてい とどう ふけんしょうがいしゃけいかく さくてい また
条第2項に規定する都道府県障害者計画を策定し、又は
へんこう ばあい とうがいけいかく しゅわげんご ふきゅうおよ しょう
変更する場合には、当該計画に手話言語の普及及び障が
いとくせい おう い し そつうしゅだん りょう そくしん かん
いの特性に応じた意思疎通手段の利用の促進に関する
きほんてき じこう さだ
基本的な事項を定めるものとする。

けいはつおよ がくしゅうとう きかい かくほう
(啓発及び学習等の機会の確保等)

だい じょう けん しちょう た かんけいきかん れんけい しゅわげんご
第8条 県は、市町その他の関係機関と連携して、手話言語

ふきゅうおよ しょう とくせい おう い し そつうしゅだん りょう
の普及及び障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用の
そくしん かん しさく すいしん かん けんみん りかい ふか
促進に関する施策の推進に関して、県民の理解を深めるよ
う けいはつ つと
う啓発に努めるものとする。

けん しょう しゃ かぞくおよ た けんみん たい
2 県は、障がい者、その家族及びその他の県民に対して、

い し そつうしゅだん がくしゅうまた くんれん きかい かくほおよ
意思疎通手段の学習又は訓練の機会の確保及びその
かんきょう せいび おこな つと
環境の整備を行うよう努めるものとする。

しゅわぶんか ほぞん けいしゅうおよ はってん
(手話文化の保存、継承及び発展)

だい じょう けん しゅわぶんか しゅわ ちいきこゆう しゅわ ふく い か
第9条 県は、手話文化(手話(地域固有の手話を含む。以下
この項において同じ。))及び手話による文学、歌、演劇、
でんとうげいのう えんげい た ぶんかてきしよさん い かおな
伝統芸能、演芸その他の文化的所産をいう。以下同じ。)の
ほぞん けいしゅうおよ はってん はか ひつよう しさく こう
保存、継承及び発展が図られるよう必要な施策を講ずる
ものとする。

ぜんこう しさく ぶんかげいじゅつかつどう およ
2 前項の施策には、文化芸術活動、スポーツ及びレクリエ
ーションを通じて手話文化の保存、継承及び発展が図ら
れるようにするためのとりにくみ ふく
取組が含まれるものとする。

い し そつうしえんしゃ かくほとう
(意思疎通支援者の確保等)

だい じょう けん しょう しゃ じりつ にちじょうせいかつまた しゃかい
第10条 県は、障がい者が自立した日常生活又は社会
生活を営むために必要な分野において、障がい者がそ
しょう とくせい おう い し そつうしゅだん りよう
の障がいの特性に応じた意思疎通手段を利用することに
よりその必要とするひつよう じょうほう しゅとく およ りよう なら
情報を取得し、及び利用し、並びに
えんかつ い し そつう はか しちよう
円滑な意思疎通を図ることができるようにするため、市町
その他の関係機関と連携して、い し そつうしえんしゃおよ
指導者の確保、養成及び資質の向上を図るものとする。
そうだんおよ しえん たいせい せいびとう
(相談及び支援の体制の整備等)

だい じょう けん しちょう た かんけいきかん れんけい しょう
第11条 県は、市町その他の関係機関と連携して、障がい
とくせい おう い し そつうしゅだん りよう かん しょう しゃ
の特性に応じた意思疎通手段の利用に関する障がい者か
ら そうだん おう およ しょう しゃ たい りよう かくほ
らの相談に応じ、及び障がい者に対しその利用を確保す
るために ひつよう しえん おこな たいせい せいびおよ かくじゅう
に必要な支援を行うための体制の整備及び拡充
つと
に努めるものとする。

きょういくかんきょう せいび しえん
(教育環境の整備のための支援)

だい じょう けん がっこうきょういく ぶんや しょう
第12条 県は、学校教育の分野において、その障がいの
とくせい おう い し そつうしゅだん りよう ひつよう しょう しゃ
特性に応じた意思疎通手段の利用を必要とする障がい者
きょういくかんきょう せいび はか しちょう い し そつうしえん
の教育環境の整備が図られるよう、市町、意思疎通支援
しゃ かんけいだんたい じぎょうしゃ た かんけいしゃ れんけい がっこう
者、関係団体、事業者その他の関係者と連携して、学校に
たい じょうほう ていきょう ぎじゅつてき じよげん た ひつよう しえん
対する情報の提供、技術的な助言その他の必要な支援
おこな つと
を行うよう努めるものとする。

じょうほう ていきょう
(情報の提供)

だい じょう けん しょう しゃ けんせい かん じょうほう えんかつ
第13条 県は、障がい者が県政に関する情報を円滑に
しゅとく しょう とくせい
取得することができるよう、それぞれの障がいの特性に
おう い し そつうしゅだん もち じょうほう ていきょう つと
応じた意思疎通手段を用いた情報の提供に努めるもの
とする。

じぎょうしゃ しえん
(事業者への支援)

だい じょう けん つぎ かが とりくみ おこな じぎょうしゃ たい
第14条 県は、次に掲げる取組を行う事業者に対し、
ひつよう しえん おこな つと
必要な支援を行うよう努めるものとする。

- (1) その事業活動に係る役務の利用又は商品の購入若しくは使用に際し意思疎通手段の利用を必要とする障がい者が円滑に当該役務の利用又は商品の購入若しくは使用をすることができるようにするための取組
- (2) 意思疎通手段の利用を必要とする障がい者が働きやすい環境を整備するための取組
(意思疎通手段に関する情報の収集等)

第15条 県は、関係団体、事業者その他の関係者と連携して、障がい者によるその障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用に資する情報通信機器その他の機器及び情報通信技術を活用した役務に関する情報を収集し、障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用の促進に関する県の施策の策定及び実施に当たって活用するとともに、障がい者、その介助を行う者、意思疎通支援者及びその他の県民に対する当該情報の提供、その入手の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

(災害時等における情報の伝達)

第16条 県は、災害その他非常の事態において、障がい者が当該事態に関する情報を迅速かつ確実に取得し、及び利用し、並びに円滑な意思疎通を行うことができるよう

にするため、その障がいの特性に応じた意思疎通手段の
利用のための体制の整備その他の必要な施策を講ずるも
のとする。

2 県は、障がい者の生命又は身体に危険が生じ、又は生
ずるおそれのある状況において、当該障がい者が円滑
な意思疎通を確実に行うことができるようにするため、
多様な手段による緊急の通報の仕組みの整備その他の
必要な施策を講ずるものとする。

ざいせいじょう そち
(財政上の措置)

第17条 県は、手話言語の普及及び障がいの特性に応じ
た意思疎通手段の利用の促進に関する施策を実施するた
め、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとし
る。

ふ そく
附 則

この条例は、令和8年4月1日から施行する。